



# 社会的ネットワーク外の異性関係開始と女性の意思決定過程

著者	仲嶺 真
内容記述	この博士論文は内容の要約のみの公開（または一部非公開）になっています
発行年	2017
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2016
報告番号	12102甲第8203号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00147628">http://hdl.handle.net/2241/00147628</a>

筑波大学審査学位論文（博士）

論文題目：

社会的ネットワーク外の異性関係開始と女性の意志決定過程

人間総合科学研究科心理学専攻

氏名：仲嶺 真

## 論文要旨

異性関係は、個人の適応や発達にとって重要である。このような異性関係は、任意性が高いため、異性関係開始は当該個人にとって重要な問題となりうる。

これまで異性関係開始の機会の多くは、個人の既存の社会的ネットワークに制限されていた。しかし、異性関係開始の機会は、社会的ネットワーク外でも生じる。それにも関わらず、この領域に関する社会心理学的な検討は十分ではなく、以下の3点が問題として考えられた。

第一に、話しかける側から話しかけられた際に、話しかけられた側がどのような判断を基に話しかける側への反応を決めているかが不明であった。従来の研究では、意図推測などの特定の判断内容に着目していたため、話しかけられる側が実際に行なっている判断を検討することが重要と考えられた。

第二に、話しかけられる側がどのような順序でどのような内容を判断して、話しかける側と会話するあるいはしないことを決定しているかが不明であった。話しかけられる側の観点から見ると、社会的ネットワーク外の異性関係開始は、社会的不確実性が高い状態である。犯罪に巻き込まれるなどの危険性を回避し、異性関係開始の機会を享受するためには、話しかけられる側の意思決定過程を検討することが重要であると考えられた。

第三に、異性関係開始に至る概念モデルが話しかける側に着目しており、話しかけられる側を考慮に入れたモデルとは言い難かった。異性関係開始を包括的に理解するためには、同モデルを拡張する必要があると考えられた。

以上の問題点を踏まえ、本論文では社会的ネットワーク外の一つとして街中に着目し、また、異性関係は男性から開始することが期待されていることを考慮して、以下の3点を検討した。

第一に、街中で初対面の男性から話しかけられた女性が判断する内容を検討した。

第二に、街中で初対面の男性から話しかけられた女性が、男性と会話するかどうかを決めるまでにどのような内容の判断をしているのか、すなわち、女性の意思決定過程を時間的順序性の観点から検討した。

第三に、実証的検討を踏まえて、異性関係開始に至る概念モデルを拡張した。

第4章（研究1-1、研究1-2）では、どの程度の女性が街中で初対面の男性から話しかけられた経験があるのかを明らかにした上で、街中で初対面の男性から話しかけられた女性はどのような内容の判断をしているのか、判断した内容と男性との会話の有無を回顧法により検討した。その結果、以下の4点が明らかにされた。第一に、約8割の女性が少なくとも1回は街中で初対面の男性から話しかけられた経験があり、約7割の女性は複数回の経験があった。第二に、街中で初対面の男性から話しかけられたときに女性が行う判断として、危険度判断（危険な予感がするなど）、人柄判断（男性は悪い人ではなさそうなど）、意図推測（男性には下心があるなど）、相貌判断（男性は好みのタイプなど）、状態判断（空き時間があるなど）、状況判断（周囲には人がいるなど）の6種類の判断があった。第三に、女性の危険度判断、人柄判断、意図推測が話しかけてきた男性と会話するかどうかと強く関連していた。すなわち、危険な予感がしたり、男性の人柄が

悪そうであったり、男性に下心がありそうと判断した場合は、男性と会話していなかった。第四に、話しかけられた際に女性が感じるネガティブ感情は、男性と会話しないことと関連する一方、ポジティブ感情は、会話するかどうかを決めるまでの時間が長くなることと関連していた。

第5章（研究2a-1~研究2a-3, 研究2b）では、女性の意思決定過程に影響を及ぼすと考えられた個人特性（ソシオセクシャリティおよび街中での話しかけへの態度）を測定する尺度を作成した。ソシオセクシャリティは「情緒的な結びつきのない（uncommitted）相手と性的関係を築く傾向」と定義される。街中での話しかけへの態度は「街中で異性として意識した初対面の相手に話しかけることについての評価」と定義した。研究2a-1では、ソシオセクシャリティを測定するthe revised Sociosexual Orientation Inventoryを邦訳（SOI-J）し、内的構造に基づく証拠および外的変数との関連に基づく証拠を検討した。その結果、SOI-Jは3因子構造であることが確認され、一定の外的変数との関連に基づく証拠が得られた。研究2a-2では、SOI-Jの因子構造を再検討し、再検査信頼性を併せて検討した。その結果、SOI-Jは3因子構造であることが再度確認され、十分な再検査信頼性が得られた。研究2a-3では、会話実験を行い、SOI-Jと会話行動との関連を検討し、女性の会話行動は男性のソシオセクシャリティの影響を受ける一方、男性の会話行動は男性自身のソシオセクシャリティの影響を受けることが示された。研究2bでは、街中での話しかけへの態度尺度を作成し、内的構造に基づく証拠および外的変数との関連に基づく証拠を検討した。その結果、街中での話しかけへの態度は、話しかけへの嫌悪（否定的態度）と対人関係構築のきっかけ（肯定的態度）の2

因子構造であることが確認された。また、一定の外的変数との関連に基づき証拠が得られた。以上の結果から、個人特性を測定するにあたり、一定の妥当性を備えた尺度が作成されたと考えられた。

第6章（研究3-1~研究3-3）では、街中で初対面の男性から話しかけられた女性の意思決定過程を検討し、個人特性が意思決定過程に及ぼす影響を検討した。研究3-1では、意図推測に着目し、話しかけ方から推測される男性の意図、意図推測と個人特性との関連を検討した。その結果、無害的話しかけ方からは「会話したい」という意図が推測されやすく、直接的話しかけ方からは「恋人になりたい」という意図が推測されやすい一方、冗談的話しかけ方からは「性的関係をもちたい」という意図が推測されやすかった。また、ソシオセクシャリティが高い女性は、話しかけてきた男性が「短期的関係」をもつことを意図していると推測しやすい一方、街中での話しかけに対して否定的態度を有する女性は、話しかけてきた男性の意図は、「性的」で「短期的関係」を目指していると推測しやすかった。研究3-2では、情報モニタリング法を用いて、街中で初対面の男性から話しかけられた女性がどのような順序で情報（判断内容）を検索しているかを検討した。その結果、街中で初対面の男性から話しかけられた女性は、早期の段階で、社会的不確実性の高い状態で重要となる情報（危険度判断・人柄判断・意図推測）を検索し、その後、その他の情報（相貌判断・状態判断・状況判断）を検索していた。ただし、ポジティブ感情が感じると想定された場合は、そのような情報検索過程が示されず、ポジティブ感情が情報検索過程に影響することが示唆された。研究3-3では、街中で初対面の男性から話しかけられた女性の意思決定過程を再検討するとともに、個人特性が意思決定過程に及ぼす影響を検討した。

その結果、街中で初対面の男性から話しかけられた女性は、早期の段階で社会的不確実性の高い状態で重要となる情報（危険度判断・人柄判断・意図推測）を判断し、その後、その他の情報（相貌判断・状態判断・状況判断）を判断することが確認された。また、個人特性は判断の順序性には影響しない一方、判断する内容に影響していた。ソシオセクシャリティは、「危険性」を低く判断することと関連し、街中での話しかけに対する否定的態度は、「危険性」を高く判断することと関連していた。また、話しかけられた際に女性が感じるネガティブ感情は、「危険性」を高く判断することと関連する一方、ポジティブ感情は、会話するかどうかを決めるまでの時間を長引かせることと関連していることが示唆された。

第7章（研究4）では、以上で検討した女性の意思決定過程がセミフィールド実験において確認されるかを検討するため、街中で実験協力者（男性）から話しかけられた女性に対し、話しかけられたときに考えたことを尋ねた。その結果、どのように話しかけられても、危険度判断、人柄判断、意図推測に関しては、多くの女性が言及した一方、危険性が低く評価されやすい話しかけられ方で話しかけられた女性は、危険性が高く評価されやすい話しかけられ方で話しかけられた女性に比べて、相貌判断、状態判断、状況判断に言及していなかった。

以上の実証的検討から、本論文では、街中で初対面の男性から話しかけられた女性の意思決定過程モデルを提案した。街中で初対面の男性から話しかけられたとき、女性はまず社会的不確実性が高い状態で重要となる情報（危険度判断・人柄判断・意図推測）を判断する。そのときに「危険性」が高いと判断された場合は、追加情報（相貌判断・状態判断・状況判断）を判断する際に、会話する理由があるかどうか

を基準に、追加情報を評価する。危険性が高い場合、基本的に会話する理由がないため、多くの女性は男性と会話しないが、会話する理由が「見つかる」とときには男性と会話する。また、「危険性」が不明（あるいは、低い）と判断された場合は、追加情報を判断する際に、会話しない理由があるかどうかを基準に、追加情報を評価する。危険性が不明（あるいは低い）な場合、基本的に会話しない理由がないため、多くの女性は男性と会話するが、会話しない理由が「見つかる」と男性と会話しない。このように、「危険性」の判断に応じて、女性は男性と会話するかどうかをある程度決めるが、その後の追加情報の段階で理由（言い訳）を見つけた場合は、前段階で決めたこと（会話するか否か）を変更すると考えられる。加えて、上述したモデルを基に、異性関係開始に至る概念モデルを拡張した。

以上の結論から、本論文は、異性関係開始に関する研究領域だけでなく、リスク研究、対人コミュニケーションに関する研究領域に寄与すると考えられた。

(3995 字 / 4000 字)